

会 議 結 果 の お 知 ら せ

宮古市工業振興ビジョン策定委員会第三回委員会を次のとおり開催しました。

令和7年2月10日

宮古市工業振興ビジョン策定委員会

- 1 開催日時
令和6年12月19日（木） 午後1時30分～午後3時00分
- 2 開催場所
市民交流センター1階 会議室1・2
- 3 議題
(1) 宮古市工業振興ビジョン（案）について
(2) その他
- 4 会議の概要
各委員に対し委嘱状を交付した後、委員長及び副委員長を選任し、議題について説明した。
詳細は、別添のとおり
- 5 問い合わせ先
産業振興部 産業支援センター 産業支援係 電話0193-68-9092

宮古市工業振興ビジョン第三回策定委員会 開催結果

1 出席者（10名）

熊谷郁夫委員、村上真司委員、佐藤秀和委員、笹平仁委員、佐々木一志委員
小西英理子委員、佐藤慎吾委員、星野正徳委員、因幡幸助委員、佐々木博基委員

2 欠席者（4名）

今野雅之委員、畠山雄次委員、吉田和弘委員、金子深雪委員

3 事務局出席者（5名）

産業振興部長 岩間健

企業立地港湾課長 竹原和彦

産業支援センター所長 山崎義剛

〃 副主幹兼産業支援係長 畠山善徳

〃 産業支援係主事 木村孝輝

4 傍聴者

なし

5 議事等

(1) 宮古市工業ビジョン（案）について

宮古市工業ビジョン（案）について事務局から説明。
審議を行い承認された。

(2) その他

今後のスケジュールについて事務局から説明。
了承いただいた。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題(1)「宮古市工業振興ビジョン(案)について」】 (委員) 資料No.2-2 3ページ 小・中・高校生を対象としたキャリア教育の推進とは何を指しているのか。すでに行っている内容か、新たにに取り組む内容か。 地元高校生が会社を知る機会が少ないのではないか。 先日開催された宮古・下閉伊モノづくりネットワークの後に、高校の先生と意見交換を行った。その際、生徒が地元の企業を知る機会がどのくらいあるのか聞いてみた。 結果、宮古高校では「しごとメッセ」、宮古商工高校では「しごとメッセ」、「職場見学会」と少なかった。もう少し取り組みを広める必要があると思う。 (委員) キャリア教育に力を入れて欲しい。 高校を卒業してから就職を希望する生徒は3割。沿岸では15%くらいしか残らない、進学してから戻れば良いとの意見も聞くが、大卒を採用する企業があるのか。なかなか難しいのではないか。小さいころから地元企業の仕事を見ていくことは大切だと感じるので、是非取り組みを深めて欲しい。	(事務局) 小・中・高校生に対する取り組みはキャリア教育マップで整理し、対象ごとに何をするかまとめている。学校が取り組む職場見学もある。 市では、テクノフェスタ、産業まつり、インターンシップ、出前講座、みやっこタウンなどに取り組んでいる。 職場見学の回数を増やすことにより、地元企業の仕事を見せられるようにして認知につなげていく。動画などの配信も含め情報発信もしっかり取り組んでいく。 (事務局) 本日ご参加の委員の皆様からも、企業の立場でキャリア教育をどのように感じているかお聞きしたい。 宮古では、雇用対策協議会があり、高校1年でしごとメッセ、2年で事業所見学会を行っている。また、NPOみやっこベースが小学生を対象に、みやっこタウンを開催し職場体験を行っている。 久慈市でヒヤリングする機会があった。久慈では、中学生を対象にしごとメッセのようなイベントや事業所見学会を行っている聞いた。 宮古地域でも中学生を対象にした方が良いか、企業を知る意味でポイントになるかと思うがいかがか。

キャリア教育について各委員から意見

(委員)

中学生の時、漁師が学校に来て話を聞く機会
はあった。事業所見学に行くことはなかった
が、身近な人が行っている会社は見ていた。
地元の会社を知る事は大切だと感じる。

(意見)

(委員)

仕事を意識し始めたのは高校生の時。中学生
にキャリア教育は早い気がするが、地域を知
るという機会、生き抜く力、自分の出身地を
知る意味で、企業見学や仕事の説明を聞くこ
とは将来優良だと思う。

(意見)

(委員)

中学生からは少し早いと思う。地元の会社
を知る事には意味があるが、事業者の協力も
必要。街を知るうえで企業を知るという取組
みであれば良いと思う。

(意見)

(委員)

中学生の時には職場体験は無かった。高校で
は求人情報を見るほか、建設中の盛岡市の警
察署を見に行く機会があった。早いうちに地
元の企業を知っていれば就職時の選択肢が
増えると感じる。

(意見)

(委員)

地元企業を知る機会は少なかったように感
じる。就職活動する時に自分で勉強して地元
企業を知った。

(意見)

(委員) 時代が変わっている。以前は人がいたが少なくなっている。大学や専門学校が増えたことで高校でも進学希望が増えているのではないかな。就職進学の話の時、先生たちは進学を進める傾向がある。また、就職先を決める際、親の意見が強い。親の勧めで先を決める子がいる。判断が薄れてきているのではないかな。進学した時に地元企業のデータを子ども達が見られるように出来れば宮古に戻ってくることに繋がるのではないかな。民間と市が協力して取り組めないかなと思う。 (意見) (委員) 中学生だと部活動がありなかなか難しい。ただ、企業訪問で仕事を知れば、高校選択のきっかけにはなるのではないかな。中高生が考えていることに対してアンケート調査をしてみてはどうか。自社も高校生の新卒採用はあるが、大卒は採用していない状況。県外から地元就職を希望する方のことを考えると企業として考えさせられる。 (意見) (村上委員) 宮古は以前と違って漁業、工業のまちというイメージが薄れてきている。教育として無理やり押し付けるのではなく、やんわり魅力を伝えることから始めることが大事ではないかな。 (意見) (委員) 県で発行する企業ガイドブックに見学の有無が掲載されている。	(事務局) 今の時点で、職場見学を対応されている会社さんはどのくらいありますか？
---	--

出前事業や工場見学の照会を行い掲載しているが、どの程度の規模や内容かは分からない。工場見学した時のインパクト等を求めているのではないかと。

久慈市では、久慈市中学校キャリア教育事業「社会体験Week」が開催され、しごとメッセのようなイベントで中学生の社会体験に繋げている。学校での事前事後の振り返りをしっかりできれば広がりができる。仕事や企業を知ることによって将来を考える事につながり、中学生のうちに教育しないと進路が決まらない。地元には色々な人がいることを知り、自ら地元になりたいと思ってくれることが大事。お世話する人も大変だけど、受け入れる人が同じ気持ちに立つことが大切。

現在、ワンストップの窓口がない状況。キャリア教育の相談窓口として地域振興センター・産業支援センター等周知することが必要。学校側が直接企業に相談するのはハードルが高い。

地元どんな会社があるか知ってもらうため、改めて受入体制を学校にアプローチして職場見学につながるように取り組みたい。

中学校は職場体験をしている。前の年を踏襲して体験先が決まっている。久慈市は産業振興部門が主導で見学先を調整している。産業部門も教育委員会と連携し、キャリア教育に関われればと思う。

(委員) 資料No.1 2 ページ リーディングプロジェクト①～⑤は順番に取り組んで行くものか。 (委員) 工業について、もう少しU・Iターンにつながる取り組みがあっても良いのではないかと感じる。 展示会の出店に対して支援があると思うが、金型や工業機械の展示会もあるので出店してPRしても良いのでは？ (委員) 現在取り組んでいる計画は後期基本計画だと思うが、最終目標値に対し、一年ごとに振り返り評価するのか。 (委員) 資料No.2-2 2 ページ 指標の①製造業総生産額の目標値の考え方6%増はどこから来ているか。 【議題(2)その他】 今後のスケジュールについて事務局から説明。	(事務局) ①～⑤は同時に取り組んで行くもの。 (事務局) 出店者補助金は特に食料加工の企業に活用いただいている。業種問わず宮古の物売り込む場への応援は行って行きたい。具体的な事案があればお寄せ願いたい。 (事務局) 総合計画の指標とリンクさせている。総合計画は5年に1回策定している。5年間経って取り組みを評価している。ただ、産業部門では数字は毎年把握して、地域経済活性化推進会議にて追跡評価していく。 (事務局) 岩手県市町村民経済計算年報を参考とし、市で設定した目標値である。
--	---